



マダニ感染症について



マダニは、野山や草むらに生息する吸血性のダニで、人や動物の血を吸います。ウイルスを持っているマダニが 吸血時に唾液を介してウイルスや細菌を体内に送り込むことで、感染症を引き起こす可能性があります。

吸血自体は数日間続くこともあり、気づかずに放置すると感染のリスクが高まります。

放置すると重症化し生命にも関わることもあります。実際に厚生労働省の報告では、2025年のSFTS(ダニ媒介感染症の一つ。裏面参照)の年間発生数は100例を超え、致死率も10~30%と高い水準にあります。

マダニはどこに住んでいるの？

マダニは主に**草むら**や**畑**、**森林**などに生息しています。山や自然の多い場所だけでなく、**公園**や**河川敷**、**民家の庭**など、**人がよく訪れるエリア**にも生息しているため注意が必要です。都市部にもマダニは存在します。特に、**ハイキングコース**や**キャンプ場**などは、人が多く集まるため、マダニにとって寄生する相手（ヒトや動物）を見つけやすい環境になっています。

マダニが生息する季節は？

春から秋(4月~10月)にかけて活動が活発になるためこの時期にしかいないと思われがちですが、**目立たないだけで年中活動しています**。

どのように刺されるの？

マダニは草むらや森林などに潜んで待ち伏せしていて 動物やヒトが近づくと飛びついて 噛みつきます。マダニはとても小さくて目立たないので、噛まれても気づかないことがよくあります。また、屋外で直接噛みつくだけでなく、**衣服やペットに付着して自宅に持ち込まれる**ことがあります。一度吸着すると10日間以上皮膚に付着し吸血し続けることもあります。特に、**わきの下**、**足の付け根**、**手首**、**ひざの裏**、**胸の下**、**頭部**（髪の毛の中）などに吸着することが多いので注意しましょう。

マダニに咬まれたときの対処法

無理に引き抜こうとせず、医療機関（皮膚科など）で処置（マダニの除去、洗浄など）をしてもらいましょう

【受診時に医師に伝えること】

①野外活動の日付け、②場所、③発症前の行動

●マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けてください。

主なマダニ感染症

SFTS（重症熱性血小板減少症候群）

- 潜伏期間：6～14日
- 主な症状：発熱、下痢、嘔気、白血球・血小板減少、意識障害など
- 治療：特効薬なし、支持療法が中心
- 致死率：約10～30%

特に高齢者の重症化リスクが高く、西日本を中心に報告が多い感染症ですが、2025年8月には北海道でも報告されました。

日本紅斑熱

- 潜伏期間：2～8日
 - 主な症状：発熱、全身の発疹、刺し口
 - 治療：テトラサイクリン系抗菌薬が有効（ドキシサイクリンなど）
- 適切な抗菌薬治療を早期に行えば予後良好です。

ライム病

- 主な症状：環状紅斑、関節痛、神経障害
- 国内での報告は北海道や長野などの特定地域に限定
- 治療：抗菌薬治療が基本

○マダニに刺されやすい人の特徴 行動パターン

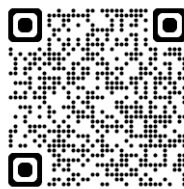
- 庭いじり・農作業・草むらの散歩をする方
- 登山やキャンプが趣味の方
- ペットと屋外で遊ぶ機会が多い方

*** 衣服の隙間（首回り・足首など）から侵入しやすいため、注意が必要です。**

《参考に下記もご覧ください》



厚労省
「マダニ対策今できること」



厚労省
「ダニ媒介感染症」